

ABOUT Milano Unica

ミラノウニカについて



About Milano Unica

ミラノウニカとは

シルク、プリントで有名な展示会「アイデア・コモ」、高級紳士・婦人服用ウール生地の「アイデア・ビエラ」、婦人服地・服飾資材で知られていた「モーダ・イン」、シャツ地中心の軽衣料用生地を扱う「シャツ・アベニュー」といった4展示会を一堂に開催すべく、2005年9月に「ミラノ・ユニカ」がスタートした。現在では、「アイデア・ビエラ」、「モーダ・イン」、「シャツ・アベニュー」に加え、日本企業を集積した「ジャパン・オブザーバトリー」や「コリア・オブザーバトリー」、OEM展「オリジン」等の特別展で構成している。本展示会は、アパレル向け生地の展示会としては、パリで開催されている「プルミエール・ヴィジョン」と双璧をなす最重要展示会として世界的に知られ、有名ブランドのバイヤーが来場する。年間2回（7月と2月）開催。

ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックの影響を避けるため、2026年2月展は前倒しとなり、1月20日からの開催となった。



Rho fieramilano

展示会場

ミラノ西部にある総面積34万㎡を誇る大規模展示会場。

ファッション、インテリアをはじめとするさまざまな産業の国際見本市が開催されています。

Duomo近辺より地下鉄で約30分とミラノ中心部からもアクセス良好。



FIERA MILANO



Distinctive Contents of Milano Unica

ミラノウニカの特徴的コンテンツ



Tendenze Milano Unica

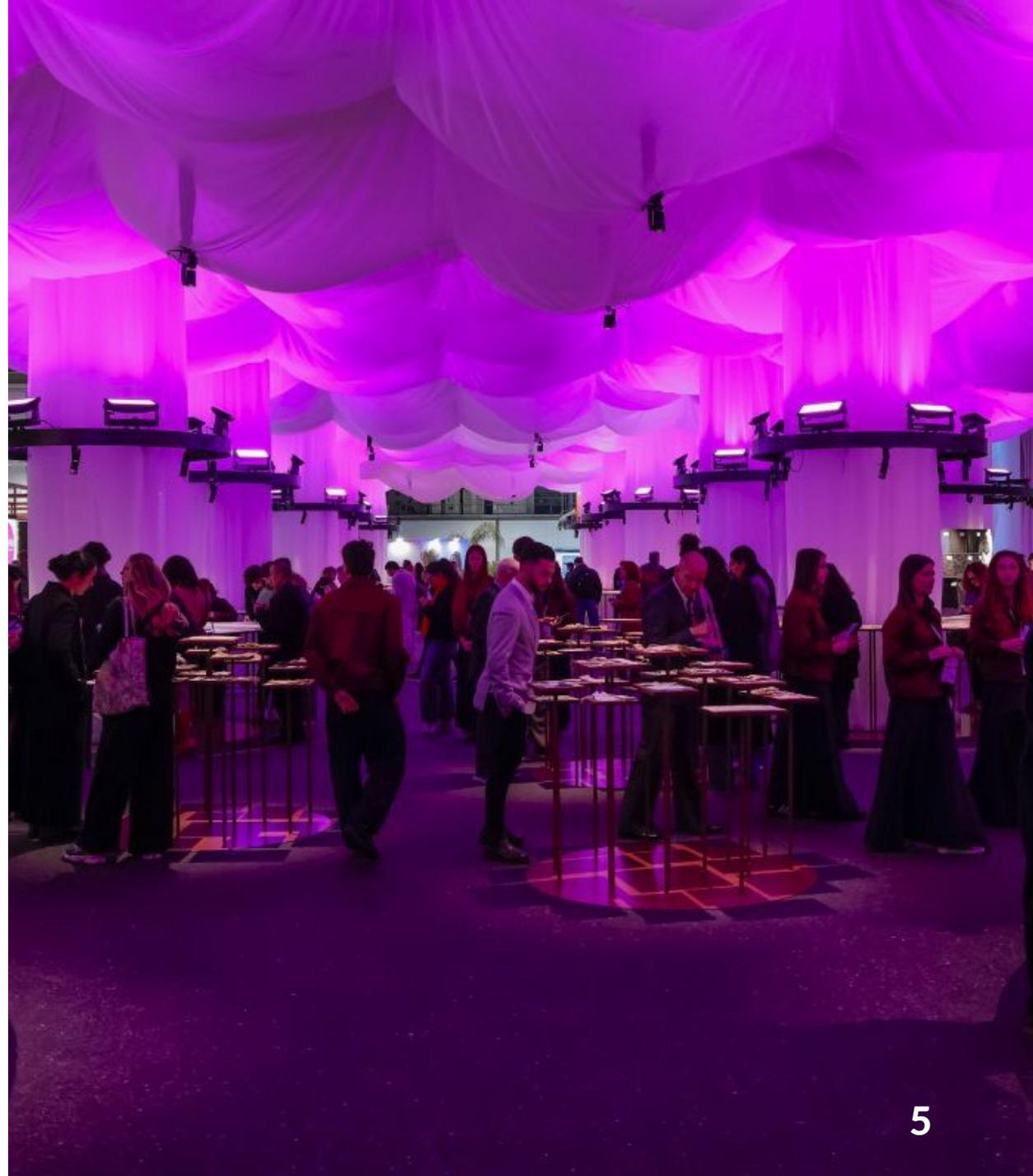
ミラノウニカトレンド

来場者を最初に迎える位置に展開する「ミラノウニカ・トレンドコーナー、前回SSのテーマは“MU COSMETIC”」。

毎回、トレンドテーマのストーリーを大胆な環境演出で構築し、来場者のインスピレーションを促進させます。

当コーナーの特徴は、ミラノウニカが世界に先駆けて持続的に発信する「サステナブル」。

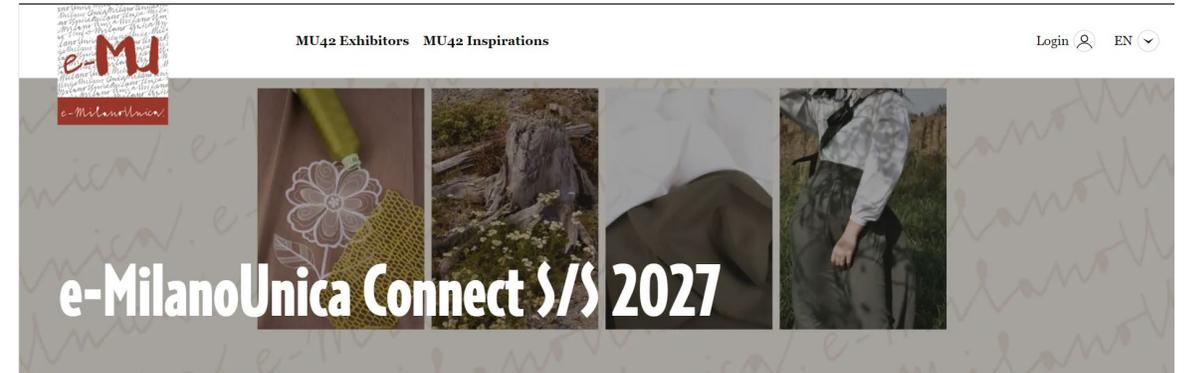
出展者の最新コレクションと「サステナブル」素材の全貌が把握できるバイヤー必見のエリアです。



e-MilanoUnica Connect

ミラノウニカ・デジタルコンテンツ

展示会の前から会期後のシーズンを通じて利用可能なバーチャル展示会としてのデジタルプラットフォーム。出展者の検索、企業や素材コレクションの情報収集とコミュニケーション機能により、リアル展を補完するビジネスツールの役割を担います。



MU42 Exhibitors

[View Agents MU42 list >](#)

Updated to 23.02.2026

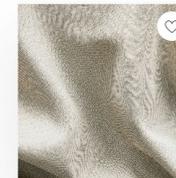
[Print the full list](#)
[Print your selection](#)

FILTER BY [Reset filters](#)

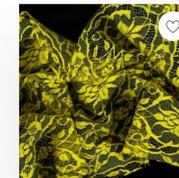
MU TENDENZE
SOSTENIBILITÀ

MERCEOLOGY

INTENDED USE



ALFRED BROWN



SOPHIE



PRINA TESSUTI

o
A
B
C
D

Report 42nd Milano Unica

第42回ミラノウニカ開催報告



Milano Unica Exhibitors

ミラノウニカ・出展者

第42回Milano Unica（開催：2026.1.20-1.22）

出展者数は総数730社を記録。主要エリアである「Ideabiella」「Moda In」「Shirt Avenue」には計585社が出展し、前年2月開催時比で+5.2%の増加となりました。とりわけ欧州（イタリア以外）からのテキスタイルメーカーは137社にのぼり、+25%という過去最高の伸びを示しました。

また、Special AreaならびにJapan Observatory、Korea Observatoryを含むオブザーバトリー出展者は129社、出版社は16社が参加。出展社数の拡大に加え、展示面積も拡張され、総展示面積は25,803㎡に達しました。



International Buyers

ミラノウニカ・来場者

第42回ミラノ・ユニカ、欧州出展者数25%増と海外バイヤー来場拡大を背景に、国際見本市として新たな到達点へ

来場者動向においても、国際性のさらなる進展が見られました。国別ではフランス（前年比+8.5%）および米国（同+13.5%）が来場バイヤー数で最も多い国となり、続いて韓国（+10%）、ドイツ（+8%）、カナダ（+6.6%）、日本（+2.4%）など、幅広い国・地域からの来場が増加しました。一方、英国およびスペインは、2025年2月開催時と同様に高い来場実績を維持しました。

